



7月12日(火)

校内球技大会



八高PTA会報

編集発行
愛媛県立八幡浜高等学校
PTA広報委員会

..... 八幡浜高校芸術発表会

八高サマーフェスタ 2022

6月18日(土)



「キセキ」

聖流ブロック保護者 住 清香

高校生活最初で最後の、間近で見ることのできる体育祭となりました。

迫力のある高校の体育祭。圧巻の装飾。先輩の姿に憧れ、そして、自分たちで創り、仲間と共に練習に明け暮れてきたあがる体育祭に感動していた一・二年生の頃。きつとそれが「ブロック長をやりたかった」解団式で述べた息子の言葉でした。暑い中の練習で、身体はヘトヘトになって帰ってくる。それでも、毎日の装飾の進み具合や応援の動き、仮装の面白さや後輩の元気良さを語る。そして、この状況の中、みんなで練習できることをうれしそうに話して、また次の日を迎える。前夜の降り続く雨に装飾を心配しつつ、幼い頃から大事なイベントの前には、体調を悪くする自分を叱咤して迎えた体育祭当日。それぞれの競技の度に見える必死な表情や掛け声、仲間と交わす満面の笑み。閉会式で見せたブロック長としての涙。今までの様々な思いが重なり、感極まるものとなりました。高校生活の中で、たくさんの支えてくれる仲間がいて、大切な時間を共に過ごすことができたことが、息子の成長に、そして、最後の言葉に表れていたのだと実感しました。



終わりに、これまで子どもたちを支え、励まし、導いてくださった先生方をはじめ、お世話になった全ての方に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。



「若さあふれる八高生！」

柏皇ブロック保護者 松本有加里

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は三年生保護者のみ参観の体育祭となりました。

柏皇ブロック長を任されたのは息子。息子は小学校の頃から人をまとめることが得意なほうではありませんが、八高という大きな学校でブロック長に推薦されたことと報告を受けるときは、頼りにされている存在であることを嬉しくも頼もしくもありました。

体育祭本番。柏皇はモノクロで迫力あるパネルをバックに競技を行いました。八高MIXリレーは順位が激しく入れ替わり、各ブロックの生徒や保護者はその勢いに引き込まれ、私も思わず息子の名前を呼んで応援していました。一生懸命走る選手たちの真剣な表情に胸が熱くなり、応援合戦では、扇子を使った華やかで、力強い息の合った演技にとても感動しました。

このような姿を見ることができたのは、ブロックの仲間たちが体育祭のために心を一つに頑張ってきたことの証だと思えます。体育祭を通して生徒たちは、「共に作り上げることの喜び」「仲間との絆」「感謝」を感じることができ、息子は、柏皇ブロック長としてのチームをまとめることの難しさ、協力することの大切さを改めて実感し、また一つ大きく成長できたと思います。

最後になりましたが、ご指導いただきました先生方、お世話になった全ての方に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



笑顔！八幡浜高校体育祭

八翔ブロック保護者 土居原幸子

「ブロック長になったけれど」から始まった夏季休業。みんなをまとめて、導いていくことができるのか不安でしたが、無事終わりとほっとしました。夏季休業中から、補習の後に準備、練習を重ね、休暇はお盆の間だけでしたが、猛暑といわれた中、本当にお疲れ様でした。ブロックで作上げたものを、思う存分披露することができたのではないのでしょうか？

我が息子が高校生になって、直に観戦したのは初めてでした。

コロナ禍での開催でしたが、マスクなしでの競技を見るのは何年ぶりでしょうか？子どもたちの顔は、心なしか開放感であふれ、すがすがしい笑顔に見えました。どの競技でもどの子どもたちも、それはとても楽しそうに競技をしていて、観戦している私たちもとても楽しかったです。それぞれが各競技で盛り上げようといういろいろなパフォーマンスをしていて、とても印象に残る体育祭でした。

結局三年生は100%の体育祭を経験することなく最後の体育祭を終えたわけですが、その中でも一生に一度しかない高校生活の一部を、限られた時間、場所の中で子どもたちなりに楽しんでいく姿をみて、これもまた記憶に残る思い出の一つとなりました。

高校生活の集大成の一つでもある体育祭。台風が近づき、コロナ禍のなか、観戦制限があったものの、無事、体育祭が開催されたこと、とても感謝しております。お世話になった皆様、ご協力、応援いただいた全ての方々に、本当にありがとうございました。





次のステージへ

男子ソフトテニス部
保護者 菊池 美和

今年度は四国総体、インターハイTシャツを揃え、気持ちを高めて活動してきました。入学してからずっとコロナ禍。思うような活動はできず、二年生のときの夏季県大会は許可が下りず棄権。悔しい思いをしました。

県総体は個人・団体ともに二回戦敗退となり、四国総体に出場し、全国優勝チームと対戦するという夢もあと少しのところまで叶いませんでした。結果は出ませんでした。仲間と過ごした三年間は、高校生活の中心で充実したものでした。試合に向けての体調管理、調整、日々の時間の使い方、メンタル、集中力…。暑い夏も真っ黒になって頑張りました。部活動で学んだこ



と、得たスキルは次のステージでの糧となるでしょう。最後に部活動に携わってくださった先生方、保護者等の方々、部員のみならず、今まで支えてくださり、ありがとうございました。

特別なステージ

ダンス・バトン部
保護者 道上桂以子

入部届を提出した後、すぐに新型コロナウイルスの影響で休校になりました。野球応援、てやてやウエーブもなく、先の見えない状況に不安ばかりのスタートとなりました。転機が訪れたのは、東京五輪聖火リレーに伴うオリンピックセレブレーションへの参加が決まったことでした。当日まで参観が可能なのか?心配していましたが、ステージで楽しそうに気持ちよく踊っている娘たちの姿に感動しました。コロナ禍で規制され、悶々としていた心がスーッと晴れた気分でした。この特別なステージは、部活動に意欲的に取り組むきっかけになったような気がします。

ダンスを好きになれたこと、先輩後輩と仲良くなれたこと、仲間と一緒にいろいろ悩んだこと、全ての時間が宝物になるでしょう。お世話になった方々に感謝の気持ちを忘れずに、これからも様々なことにチャレンジしてほしいと思います。お疲れ様でした。西岡先生、三年間ありがとうございました。



籠球に感謝

男子バスケットボール部
保護者 宇都宮彰一

「の?」と尋ねるくらいだった。そんな父と違って、息子がバスケットに夢中になり、チームメイトとバスケットという競技と部活動を楽しんでくれて、本当にうれしい。指導してくださった先生、応援していただいた保護者等のみならず、ありがとうございました。試合のたびに弁当を作った妻にも感謝しています。

私がバスケット経験者なら、息子に「スモールフォワードは左が得意だから、アウトサイドからシュートを打つと見せかけて、一旦パワーフォワードにパスした後、右からアリアップで決める。あと、諦めたら、そこで試合終了ですよ」というアドバイスができたと思うが、できたのは「なんで、試合中にシューズの底を撫で



「真」の探究

女子弓道部
保護者 柏木 実恵



入学当初よりコロナ禍で様々な制約の中、試合は選手のみ参加、保護者等の応援は無し、という状況が続いていました。袴を身に着け、ピンと伸びた背筋、凛々しく頼もしくなった姿を見送るだけで終わってしまうのだろうか。と残念な気持ちでいました。

しかし、南予総体で初めて応援に行くことができ、県総体一週間前には二・三年生の射会も行われました。全員

正座で礼から始まり、心を整え、これからの射をイメージする静かな黙想の時間。一つ一つ決められた淀みない所作の後、二十八メートル先、直径三十六センチの的に向き合っても美しいと感じました。

青春へのトライ

ラグビー部
保護者 菊池 敬

せん。学んだことを忘れることなく、新たに目指す道へ進んでほしいと思います。

私が八高に在学していた三十年前以上前からあるラグビー部、息子がラグビーをしたいと言ひ、荒井先生のご指導のもと日々練習に取り組んでいました。

南予総体では団体優勝をしたものの、娘は部長として不甲斐ない結果を残してしまひ、ひどく落胆していました。「練習量に結果が見合っていない」一生懸命に練習をしてきたからこそ出た言葉です。弓を引けば引くほど、どうすればよいのか答えが出せず、悩みの中で迎えた最後の大会は、理想通りにはいかず終わりととなりました。

カモーン!!

男子テニス部
保護者 二宮 紳



練習に毎回送迎して下さった荒井先生、今まで関わっていただいた保護者等の皆様、学校関係者の皆様に感謝申し上げます。今後の人生に何事にもトライ(挑戦)していくことを願っています。

高校から始めた硬式テニス。家に帰ってからフォロムチェックや、プロのテクニクを研究する毎日。練習がオフの日もコートを借りて自主練習。休日には他校の生徒を誘って合同練習することもありました。勉強も同じ熱量で頑張ってくれたら：(笑)その結果、自分のプレースタイルを確立し、強豪とも渡り合えるレベルに上達しました。県総体では一歩及びませ

んでした。振り返ると、キャプテンとしての責務を果たし、ここに辿り着くまでの過程にこそ成長の鍵があったように感じます。勝ち負け以上に価値ある経験と思い出。そして大切な仲間たち。どれも貴重でかけがえないものです。



出会いに感謝

女子バレーボール部
保護者 兵藤美佐子

コロナ禍で練習試合や遠征、大会が中止になる中、ひたむきにバレーボールに向き合いながら迎えた県総体。

残念ながら二日目には進めませんでした。必死にボールを繋ぐ姿に心を打たれ、みんなの成長を感じた試合でした。いろいろなことを乗り越えて最後の大会を終えた三年生、今まで楽しませてくれてありがとう。お疲れ様でした。

一年の頃から思うようにプレーができないと涙し、キャプテンになってからはチームをまとめる難しさに悩み続けた日々。そんな娘を周りのみんなが支え、笑顔にしてくれたことに何度も救われました。部活動の中で仲間に出会い、一緒に悩んで涙を流し、笑った分だけみんな強くなつたはず。自信を持ち、次の目標に向かって全力で進んで行ってください。

先生方をはじめ、快く協力してくださった保護者等の方々、応援してくださいました。皆様に感謝の気持ちでいっぱい입니다。本当にありがとうございます。



令和四年度

全国高等学校総合体育大会

七月二十九日から宇和島総合体育館で卓球競技が開催され、本校からも多くの生徒が審判・補助員として参加し、大会を盛り上げました。



また、高校生推進委員会メンバーが高校生おもてなし活動として試合会場内ブースを担当し、全国から参加した選

手や応援に来県された方々と交流、愛媛のPR活動を行いました。ブースでは、水引でシトラスリボンの制作体験や愛媛についてのクイズを出題するなどして、全国の選手と交流を深めました。



中国・四国地区高等学校PTA連合会大会愛媛大会

令和四年七月二十六日、愛媛県県民文化会館において、中国・四国地区のPTA連合会大会が開催されました。テーマは「笑媛(えひめ)から始まる絆づくり〜無限の可能性を秘めた子どもと共に〜」新型コロナウイルス感染症の影響で、子どもたちの活動が制限されている中、これから前向きに、積極的な様々な活動が行われていくことを目指し、今大会が開催されました。本校からも十数名の保護者の方、教職

員が参加しました。元サッカー日本代表監督の岡田武史さんの講演、松山中央高校吹奏楽部の演奏、研究協議、そして県内の高校生による発表もあり、盛りだくさんの大会となりました。会館のエントランスにて、県内の高校から各高校独自の生産品の販売ブースが設けられ、本校からも商業研究部「A★KIND」が、和風パスタソースの販売を行いました。県内外から来場された方々をもてなしました。



PTA理事

地区名	氏名
江戸岡	松井 成樹
	中塚佳代子
	程野 香里
白浜・幸町	矢野 幸子
大平	日出山徳子
	川縁 由美
向灘	阿部 佳代
栗野浦・広瀬	二宮麻由子
古町・産業通	繁木 麻由
松柏・松尾・郷	田安奈緒美
	曾根 英子
	速水 由香
五反田	山下 静子
川舞・双岩	蔵田 早容
舌田・川上	高橋 竹昭
真穴	河野 由美

地区名	氏名
日土	宇都宮裕子
喜須木	田中 和代
宮内	武内 勇
	藤原 慎二
川之石	米井 陽子
伊方	兵頭 千絵
	金山 一美
三瓶	菊池久美子
	増田 優香
宇和	鷺見 英治
	水根 由美
	松本 茜
三好	三好 基文
	城戸 紘美
大洲・喜多	松浦 真実

令和4年度 Parent・Teacher・Association 役員

役職	氏名	地区名
P T A 顧問	清水 克巳	宮内
P T A 会長	六條 公治	古町・産業通
P T A 副会長	高岡 裕司	大黒町・新町・本町
"	田中 昭光	江戸岡
"	田中須美恵	大平
P T A 監事	谷 和代	江戸岡
"	川里 幸治	大黒町・新町・本町
"	兵頭 麻季	大黒町・新町・本町

(敬称略)

5月19日(木)
PTA理事会
(専門委員会)



六條会長を中心とした3役7名と各地区より選出された31名の理事、先生方で5つの専門委員会を組織しています。

今年度もコロナ感染症により、PTA活動が制限されていますが、下記の各専門委員長・副委員長さんを中心に「PTAとしてできること」を実践していきます。ご協力よろしくお願ひいたします。

校外生活指導委員会	研修・人権教育委員会	広報委員会	厚生保健委員会	学年委員会
委員長 武内 勇 副委員長 川縁 由美	委員長 松井 成樹 副委員長 山下 静子	委員長 程野 香里 副委員長 菊池久美子	委員長 城戸 紘美 副委員長 速水 由香	委員長 米井 陽子 副委員長 宇都宮裕子

全国大会出場

全国大会に出場して

ビジネス部 二年 上甲 悠鈴

全国大会への出場が決まったときは、とても驚きました。初めて行く場所、さらに一人だということもあって、ずっと不安でいっぱいでした。全国大会の会場に入ったときは、慣れない雰囲気や他の選手の練習風景を見て、自分自身がこの場所にいることの現実味がなくなり、かなり不安な気持ちになりました。練習においてもあまり調子がよくなく、本番も不安でした。そのような気持ちのまま、本番を迎えましたが、いざ始まると、思いのほか、調子よく、楽しく競技に参加することができました。大会全体の記録を見ると、私の記録は、まだまだですが、過去三回の大会の中で自己ベストを出すことができ、よかったです。

私課題は、そのときの気分や疲れ具合で記録に大きな差が出ることです。自分で調整して調子上げることは難しいため、本番で記録が出せるかは一か八かのところがあります。それでも、本番で納得のいく記録が出せないと、悔しいので、練習での記録を平均的に上げることを目標に取り組みたいと思います。ワープロ競技は自分との戦いです。自分で調子上げて、本番に臨めるよう練習しています。しかし、調子が悪くて嫌になったときなど、同じ部活動の人たちの存在は大きいです。まわりの人が頑張っている姿を見て、前向きに考え、気を引き締めています。今までも周りの人たちに支えられて頑張ることができたので、これからも感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思っています。

大会に出場したいという強い思いはありませんでしたが、全国大会を経験して、大会の楽しさを知ることがで



高校陸上を通して

陸上競技部 三年 山下 純

インターハイで勝負するという目標に向かって走り続けた高校生活でした。その甲斐あって四×一〇〇mリレーで全国の舞台上に挑戦することができました。南予総体では、四人の気持ちとバトンパスの感覚を再確認し、県総体では次に繋がる走りを意識しました。四国総体では緊張がピークに達するも、上位を目指し走りきりました。

四国総体の決勝レースを終えた後、電光掲示板に「八幡浜高校」の名前が表示された瞬間の、あの高揚感と達成感は今でも鮮明



に覚えていきます。インターハイは、志を同じくする仲間と走ることができ最後の機会でした。苦楽を共にしてきた仲間とのレースだったからこそ、今まで以上に緊張感を持って試合を楽しむことができました。全国という舞台は大きく、自分自身の未熟さにも気付くことができ、それ以上に仲間の大切さ、絆の強さを再確認し、大きく成長することができたレースでした。



卒業後も自己ベストの更新を目指し、競技を続けていきたいと考えています。八幡浜高校陸上競技部で得た数々の経験は、私の今後の大きな自信となりました。これからも感謝の気持ちを忘れず、今まで以上に自分の可能性に挑戦していきたいと思っています。

インターハイに出場して

水泳部 三年 程野 裕介

私は、高校水泳最高の舞台である「インターハイ」に出場することを目標に、三年間部活動に取り組んできました。

今年度は、インターハイへの出場制限が無く、四国総体上位三名までがインターハイに出場できました。去年悔しい思いをした先輩方の分まで頑張ろうと、気合を入れて四国総体に挑みました。まず、一日目の四〇〇m個人メドレー。県総体では、去年四国総

体三位だったライバルにラスト五〇mで抜かれてしまいました。四国総体ではその選手が隣のレーンだったので、「絶対に勝とう」と決心しました。ラスト五〇mで絶対に抜かれぬよう、県総体からレーンを変えました。まず、バタフライでは前に出る、苦手の背泳ぎではできるだけ離されない、得意の平泳ぎでは県総体の時よりもタイムをあげて、この時点では三位になる、最後の自由形では自信をつけた粘りの泳ぎで順位を落とさない。このプランを有言実行し、三位に入賞し、インターハイ出場権を獲得することができました。今までの練習を頑張ってきたよかったと思えた瞬間でした。

二日目の二種目は県総体の時よりもタイムを落としてしまい、リレーで仲間と一緒にインターハイに出場するという目標を達成できずとも悔しい思いをしました。その仲間たちの悔しさを胸に、残り一か月の練習を全力で取り組みました。



インターハイではベストタイムは出せなかったものの、自分らしい泳ぎをすることができました。目標であったインターハイに出場したことで、最高の競泳人生になりました。支えてもらった家族や仲間、顧問の先生方や指導していただいたコーチには感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

とつきよう総文NONO

言葉と視点と「人間」

文芸・新聞部 二年 古川 颯汰

「とつきよう総文2022」では今後の自身の成長につながる貴重な経験ができました。

初日は開会式の後、文学研修に参加しました。グループ別で異なるコースが設定されており、愛媛県勢は日本近代文学館での研修でした。講師は直木賞作家の木内昇先生で、歴史小説の執筆にまつわる貴重な話を聞くことができました。また、夏目漱石「こころ」の

特別展示では作品の背景や発表当時の文化人達のコメントなどが時系列で紹介されていて、多角的な視点から作品を知ることができ、これからの授業が一層楽しみになりました。二日目の分科会ではまず、事前課題として書いてきた互いの小説について合評会を行いました。テーマ「ふるさと」へのアプローチの仕方の作品の長所



や短所、自分ならどう描くかなど話は尽きませんでした。午後からの額賀澤先生の講演では書くときに意識すべきこと、読者に分かりやすい文の書き方について教えていただきました。活動を通じて、自分が伝えたい内容を読者にきちんと伝えたいのか、という小説の軸となる部分について今まで書いてきた作品を振り返ることができました。

三日目は谷村志穂先生による記念講演でした。特に私が感銘を受けたのは、ロシアとウクライナの軍事衝突以前に御自身が経験された、ロシアの方々との交流の話です。先生自身が目の当たりにした優しさや、仕事に対する熱心さ、

その経験に基づいた「国という全体を見ては個人が見えてこない」という言葉から、「視点を持つこと」について改めて考えさせられました。今年度もコロナ禍での開催というところもあり様々な制限がありましたが、非常に充実したものでした。運営に携わっていただいた方々に心から感謝しています。本当にありがとうございました。



編集後記

七十九号をお届けします

この度、八高PTA会報第七十九号を無事に発行することができました。

ここ数年にわたるコロナ禍で学校行事も自粛が続く、それがあたりまえになりつつあるのが少しさみしくも感じます。

そんな中、コロナ禍も吹き飛ばすほどのパワーあふれる八高生の笑顔と感動をお届けできれば幸いです。

最後になりますが、快く原稿を執筆してくださった皆様、編集作業にご尽力いただいた先生方や広報委員の皆様、ありがとうございました。

〔広報委員長 程野 香里〕